

余呉型民家の活用に関する研究—滋賀県長浜市田根地区を対象として—

慶應義塾大学政策メディア研究科修士1年

80925430 宮原夢未

・田根プロジェクトに参加した理由

近年、技術の進歩やグローバル化が進み、海外から技術や資材を大量に輸出・入することが可能となり、世界中の街に均一のコンクリートとガラスのジャングルが広がるようになった。日本も例にもれず、都市部は勿論、地方に至るまで、どこに行っても同じ風景が広がっている。これに対し私は、ヴァナキュラーな建物や風景に魅力を感じる。このような建物や風景は、唯一無二のものであり、世界中のどこを訪れても同じ風景は二つとない。更に、それは先人の知恵や地域の文化を物語る。このような風景が広がる地域は、日本にはまだ残っているが、それらの多くは存続・伝承の危機にさらされている。

そこで私は、このような地を訪れ、先人の知恵や地域の文化を知ると共に、今後その街が存続し続けていく為の一助になれば幸いと思い、このような活動ができる田根プロジェクトに参加した。

・前期行った活動内容

1. 昨年度までに行われた調査内容の共有
2. 報告書作成
3. フィールドワーク(6月13日～15日)
4. 7月29日～8月2日に行われるワークショップに向けての準備

- 詳細内容 -

1. 昨年度末に行われた「生きる木活きる地」展で展示された、パネル及び模型を中心に 昨年度までに行われた活動内容を把握した。特に余呉型民家については興味があったので資料を集め、理解を深めた。
2. 5月26日に行われた助成金の為のプレゼンテーションに向け、報告書を作成した。その中で私が担当したのは、政策的提案の章である。即ち、これまでの分析結果を踏まえた上で、今後田根を活性化させていくための具体的な政策の提案をおこなった。
具体的な提案は、「通過場所としての古民家」である。田根地区へ外部の人たちが訪れ、いずれは住人として定着するために必要な体験的生活やアクティビティを行うプログラムを集落ごとに提案した。そして、これらの活動を行うための施設として、現存する空き家古民家の再生活用の提案をおこなった。また、政策的提案の裏付けとし、現在のまちづくりの動向を知るために、国土交通省が行っている「新たな公」の平成20年度のモデル事業、全97件を参照し、それらの取り組み内容をまとめた。

3. フィールドワークでは、Iターン・Uターンの住民と昨年ヒアリング調査ができなかった集落の自治会長、更には田根小学校の校長先生や工務店に勤務されている方、今後田根に移り住む予定の方など、様々な方にヒアリング調査を行った。この調査を通じて、建物や集落景観、地域の活性化について、改めてみなさんの知見がさまざまである事がわかった。また、このような地域に、新たな若い世代の住民に住んでもらうためには、教育機関の充実が重要である事を感じた。これは、ドッポ村に住んでいる森林組合の女性の方(30代半ばくらいだったと思います。)へのヒアリング調査を通じて感じたことである。「もし、結婚して子供を産んで、引っ越しを考えた時、まずは子供を安心して預けられるところがあるか考えます。」とその方はおっしゃっていた。集落の若い担い手を今後継続して確保していくためにも、まずは教育機関を充実させ、更に地域ならではの魅力ある教育プログラムが設けられている事が必要であると考えました。
4. 夏のフィールドワークでは、各集落の建物のデザインコードの調査分析と、家のなかでの昔と現在の暮らし方についてヒアリング調査を行いたいと考えている。現在はそれに向けて、地図・写真等で建物と集落配置の分析を行っていると同時にヒアリング調査の内容のリストの作成を行っている。

また、展示会開催に向けては、昨年「生きる地活きる木」展で使用した模型の修復作業とパネルの準備、ポスターの作成や展示会のレイアウトを担当し、作業を進めている段階である。今回は田根公民館だけでなく、ふれあいの里での展示会もあり、私たちの研究の成果を約1か月もみなさんに見ていただける機会なので、いい展示会になるようこれからも頑張って準備を続けていきたいと思っている。

・後期行った活動内容

1. 田根村において二度の展示会を開催
2. 田根村において地元住民とMITとの協働によるワークショップを開催
3. 木之元において展示会を開催

- 詳細内容 -

1. 前期に行ったフィールドワークとヒアリング調査をもとに、田根村にある14の集落の特徴を明確化し、各々の集落の立地、産業、人口等を考慮した上で、これまでの提案を見直し、ソフト面の提案を充実させた。また、模型等にも修正を加え田根公民館において開催された展示会に参加した。当日は、多くの地元住民の方たちに足を運んでいただき、私達の活動を紹介できた。
2. 14集落の内5つの集落をピックアップし
 - ①コミュニティ
 - ②持続可能な未来

③生業である林業(木)

に着目して、古民家を核とした地域再生提案を各グループで行った。

MIT との協働ということで、私達にはない視点での新しい提案があり視野が広がった。

また、提案の発表は地元住民も招いて行い、そこで意見交換ができたことは大きな成果である。

3. 田根地区での地域再生活動をもっと多くの人に知ってもらうために木之元(田根地区より車で1時間くらいにある村)で行われたフェスタに参加した。このフェスタは、移住を考えている人のために開催されたもので、当日は私達だけでなく、地元の工務店やまちづくり協議会等も参加した。他の団体の活動を知ったり、移住を考えている方たちがどのような点に興味を示しているかなどをこの展示会を通じて学べた。

この活動は、学部生の頃に行ってきたものとはかなり違い、実践的で、住民の方と近い距離で活動ができてとっても楽しく、やりがいがある。私たちの活動が田根の地域活性化の一助になれば幸いですと思うので、今後も引き続き頑張って取り組んでいきたいと考える。